

ふるさとの昔話



鈴川、砂山の坂の途中の左側に小さなお堂があります。このお堂の中に、高さ50センチほどの石のお地蔵さんがおさまっています。このお地蔵さんは、かつては人を化かしたり、あばれ地蔵だという評判でしたが、その後、人の願いをよく聞いてくれるお地蔵さんとして地域の人たちに親しまれています。

人を化かす地蔵さん

昔々のある闇の晩。吉原へ着いた二人の船頭が、元吉原の宿場まで行こうとしましたが、道が暗くて困っていました。

すると前の方から紺がすりを着た小僧がやってきて「こっち、こっち」というので小僧のあとについて行きました。ところが小僧の姿はいつの間にか消えて、二人は葎の生えているドブの中をザブザブ歩いていました。ようやく気がついてドブの中からはい出した二人は、「あの小僧め、地蔵が化けていたに違いない。畜生め!」と悔しがりました。

こんな人を化かす話も伝えられているお地蔵さんですが、いつのころからか、このお地蔵さんは、人の願

いをよく聞いてくれるお地蔵さんだ
というので参詣する人が多くなった
ということです。

いいなり地蔵さん



鈴木さん

砂山に住む鈴木和嘉雄さん(83歳)は、「この地蔵さんはね、人のいうことをよく聞いてくれるもんで『いいなり地蔵』と呼ん

でいるよ。毎月23日は地蔵さんのお祭り、われらが子供のころは露店が出て、大層にぎわったね。今は店はでないけど、お供え物を上げたり、近所の年寄りが集まって世間話に花を咲かせたりしているね」と語ってくれました。

地名の由来

船津



船津とは、船の着く湊という意味だから、昔この地に住んでいた人々が、浮島沼を隔てた海辺の村々と舟で行き来したことがうかがえます。この村の山すそには縄文時代の遺跡や多くの古墳がありますので、数千年も昔から人々が住んでいたことは確かです。それは山を背に、湖を前にした大変住みよい土地だったからでしょう。

古墳のはなし ⑨

古墳と祖先の生活



古墳の石

古墳をつくるには、たくさんの石が使われます。

では、古墳の石はどこから、どのように運んだのでしょうか。

「横沢古墳」の場合は、東側に流れていた伝法沢の石を中心に使っていました。また「実円寺西第1号古墳」は、近くに川がなかったためか自然の溶岩が多く見られます。

このことから、市内の古墳は、それぞれ古墳の周辺にあった石を石室に使ったようです。

古墳に使われている石の大部分は、多少重いものの人間の力で動く大きさです。したがってそれらの大部分はモッコのようなもので運んだようですが、中に天井石や奥壁などに1トン以上もある巨石があります。

このような石は「修羅」と呼ばれる木製の板の上に乗せ、コロや綱で運んだようです。

こちら編集室

食欲・スポーツそして読書の秋。

秋は、夏場の疲れをいやすと同時に、冬場に向けて体力を養う季節。

我が編集室の面々も、ボリュームたっぷりの昼食で体力をつけ、取材に飛び回っています。